イ14
A 917

東京帝國大學圖書之印

第七十八号　六葉

三月二十四日「ガゼット」抄譯

日本ヨリ屢愚ナル報告ヲ寄テ亜墨利加ノ新聞ニ記載スルハ多クノ亜墨利加人并ニ他ノ在留外國人ノ大イニ憂フル所ナリ近頃此地ノ亜墨利加公使ビンハム氏ヨリ寄セタリト云ヘル書簡ノ抜粋ヲ亜墨利加ニ於テ刊行シ横濱ノ一新聞厳ニ其書簡ヲ批難セリ之ニ由テビンハム氏ハ他ノ新聞ニ書ヲ投シテ其書簡ハビンハム氏ノ書タルモノニ非サルヿヲ公布セリ然レ𪜈合衆國ノ新聞ニ絶エス記載スル蜚語ヲ讀ム片

大正十一年四月大隈侯爵邸寄贈

4223

ハ看者ニシテ外國人ハ二派ニ分レビンハム氏
ヲ除其他ノ外國公使ハ皆日本ヲ併呑セント
欲シ合衆國ノ星旗ノ保護ニ因テ他國ノ公使ヲ
戦栗セシムルニ非サレハ日本ハ忍チ其餌トナヘ
ルヘシト思ハシムル事無キニ非ス
此地ヨリ私ニ書ヲ寄スル者ハ上ノ如キ妄語ヲ
吐クヲ以テ過去現今ノ日本ト外國トノ交際ニ
関セル實事ヲ記シテ示ス可シ亦裨益無シトセ
ス
去ル二年間外國公使日本宰相共ニ條約改正ノ
事ニ注意セシハ衆人ノ知ル所ニシテ近頃岩倉
ヲ日本帝ノ使節トシテ條約諸國ニ遣ハシタル
ハ直チニ其國君ニ謁シテ外國政府ヨリ戎ル免
許ヲ得ントト欲スルノ意アリシガワシントン
ニテ初ヨリ其事ノ成ラサリシニ回リ忍チ本國
ヨリノ命令ヲ改メ外國ニ於テハ一事ヲ決セス
萬事帰國ノ後東京ニ於テ處分スヘキヿヲ報知
セリ
日本使節ノ改羅巴ニ到着セントセシ頃ハ外國
公使改羅巴ニヒリシ者多ク其国ノ政府ト事ヲ

議スル使臣ノ帰カドモ條約改正ノ事ハ日
本ニハテ諸國ノ公使一同集議シテ其本國ノ上
官ヨリモ能ク熟知セル事件ヲ處置スルヲ以テ
日本及ビ之ト條約ヲ結ヘル諸國ノ為メニ宜シ
トセリ
條約改正ノ商議ニ缺クヘカラサル外国公使ハ
去年ノ中頃日本ニ帰来レリ佛國ハベルテミ
氏ヲ以テ前ノ公使ウートレー氏ニ代ヘタリ此
人ハ斯ル事件ニ才幹アルヲ以テ特ニ之ヲ選ミ
タレナリ英國公使ハーリー、パークス君ハ其職
務ニ慣レ久シク文那ニ在テ其任ヲ厚カシメサ
ルノミナラス英国女王ノ名代人トシテ始テ土
国ニ来リシヤ日本ノ親友トナリ并ニ英人及ビ
其他ノ外国人ノ権義ヲ保護セリ
北日耳曼ノ公使ホンブランド氏ハ日本ニ於テ職ニ
在ルヲハーリー、パークス君ヨリモ久シク日本人ニ對
シテ懇切ナルハ人ノ能ク知ル所ナリ
合衆國ノ公使デロング氏ハ日本政府ヨリ亜墨利加人
民ニ償フヘキ負債ニ関シテ決然ヲ處シタレハ大イ
ニ日本政ノ心ヲヨ其四年間ノ経験ト同僚及ビ

日本外務省ト文官ト百年ヲ以テ此時ニ当テ大イニ
用ヲ生スヘカリシニ職ヲ黜ケラレシ人之ヲ惜ミタリ
公使ト外務省トノ間ニ少シク快カラサル事アルハ
勢ノ止ムヘカラサルモノナリ日本官吏ト外国官吏ノ
應接ヲヌ〻薔薇水ノ如ク快カラシメンヲ期
スルハ難シ然レトモ假令其間ニ何等ノ異論アリ
トモ前ニ亜墨利加新聞ヨリ抜粋シタル如キ事絶シ
ジヨッヂビンハム氏他国公使ノ所行ニ與スル
ヲ合衆国ノ利益ト思ハサリシハ実事ナリ然レ
ニ他国公使ノ所行ハ外国人日本人ノ利益ヲ謀

ルノ意ヨリ出タルヿハ一二事ヲ挙テ之ヲ示ス
可シ
余輩一千八百七十三年七月ノ事ニ溯テ他国公
使ノ所行ハ良意ヨリ出タルヲ證セン
日本ニ在留セル外国人ヲ管轄スルノ権ハ條約
ニ依テ是マテ外国政府ノ手ニ在リシガ日本人
其権ヲ得ントスルノ意ヲ決セリ支那土耳其
暹羅又〻其他法律ノ確定セサル国ニ於テハ皆
條約ニ依テ此権ヲ外国政府ニ任セリ斯ル條約
ハ其国人自満ノ気ヲ弱ルノミ少シモ害無シ

之カ為メニ生ジ益甚タ多シ内外人民ノ間
ニ紛糾ヲ防ケリ日本ハ条約改正ヲ欲セシ
箇條中ノ一ハ此権ヲ得ントスルニ在レモ外
國政府之ニ同意シ難キ明カナリ成文法律無
ク正直ノ裁判人無ク公論ヲ以テ裁判ヲ可否ス
ルヿ能ハス官吏ヲ命スル偶然ニ出テ才幹学識
ニ由ラス甚タシキハ其國ノ先例ヲ知リメル者
ヲ必モ擇マス官吏ハ唯賄賂ヲ受ルノミナラス
又之ヲ受ルヲ期望シ牢獄ハ悪シク囚人ノ待遇
宜シカラス之カ為メ常テ一ノ外國人ノ死ヲ致

シ刑罰ハ或ハ厳ニ過キ或ハ寛ニ失シテ一定セ
ス此ノ如キ國ニ於テ雖カ其法律ノ下ニ立ツヲ
肯ンセンヤ孰レノ政府カ其人民ヲ此ノ如キ國
ノ管轄ニ任センヤ道理ヲ以テ論スレハ各国政
府其國内ニ在ル者ヲ尽ク管轄スヘキノ希フヘ
キハ疑ヲ容レス然レモ実地上ニ於テ論スレハ
一千八百年代ニ之ヲ行フハ難シ東方諸国ニ住
シテ其事情ニ熟セル者ハ今日日本人ノ日本等
ノ説ハ是フル人ノハ却テ後来ノ説ノ実地ニ行ハ
ルヘキ海ルノメヤンヲ知ル次号ヘ續ク

三月二十五「ルド」沙羅
佛國郵船「ニル」号破船人員
佛國郵船「ニル」号破船シテ多クノ人命ヲ失セメ
ル事ヲ記スルハ実ニ哀シム可シ縣廳ヨリ佛國
領事官ヘノ報知ヲ見ルニ詳カナルヿヲ載セサ
レドモ「ニル」號ハ本月十三日香港ヲ發シ其機関
損シタルニ因リ伊豆岬ノ近傍ニテ二十日ノ夜
暴風ノ為メニ破船セリ船中ノ人員惣計百四十
六人中生存セル者總テ四人其餘ハ未タ生死
ヲ詳カニセス但シ百四十人中六十人ハ水夫ニ
テ八十六人ハ乗客ナリ上ノ事件ヲ報知シタル
生存セル一人ハ二十一日伊豆岬ニ近キ賀茂郡
イスマ村ニ達セリ此者ト共ニ泳キタル者四人
ナリシガ生テ岸ニ達セシハ此者一人ノミナリ
ト云フ後三日ヲ経テ二十四日又三人ノ生存サ
ル者ツマラト云フ近傍ノ村ニ達セリ然レドモ
其餘ノ水夫乗客ハ如何ナリシヲ知ラス切ニ望
ム其餘モ生命ヲ全シテ岸ニ達センヿヲ生存セ
ル一人ハ商人ナル由思フニ佛國炮船「ボーレー」
ヌ号直チニ出ヅ破船ノ場所ニ到リカヲ盡

シテ救助ス可キ乗客ノ非常ニ多カリシ
蓋シ「ヴーレーン」号ハ送ルヘキ人夫ヲ多ク乗セ
タルナラン

第八十号　十葉

三月二十五日「ガゼット」抄譯

前號ノ續キ

一千八百七十三年ノ中頃ニ至ルマテ一時ノ間
ハ日本政府外國人ノ日本ノ内地ニ行クヲ制限
シテ開港場ヨリ十里内ト限リタル條約ノ一章
ヲ慎スル甚タ寛大ニシテ外國人十里外ノ地ニ
行カント欲スルニ官吏其人ノ行動不良ナリト
認ルニ非ラサレハ之ヲ妨ケス之ニ依テ通行切
手ヲ乞フノ煩労無クシテ富士山日光及ヒ其他
ノ地ニ行キタルトキ多シ然ルニ小國人隨意ニ内

大正十一年四月
大隈侯爵邸寄贈

ヤニ行クノ色許ニ得ントト欲スルニ至リ政府ハ
其代ニ外國政府ヲシテ領地分ノ權ヲ棄テシメ
ント決シ之ニ依テ境東ヲ踰テ十里外ニ行クヲ
嚴禁セリ外國公使ハ此事ノ成ルヘカラサルヲ
政府ニ告ケタレトモ政府ハ直チニ國中各村ノ官
吏ニ嚴令ヲ下シ若シ外國人通行切手ヲ所持セ
スシテ内地ニ行クノ者アラハ最近ノ開港場ヘ送
リ返スヘキヿヲ命シタリ
之ニ依テ一ノ日耳曼人内地ヨリ送リ返サレ條
約ヲ犯シタリトテ其内国ノ領事官之ニ罰金ヲ命
セシヿアリ
然レトモ此日耳曼公使ハ罰金ヲ出サシムルヲ許
ルサス其言ニ曰ク日本人ハ自己ノ便利ノ為メ
ニ夢クノ外國人ヲシテ内地ニ行キ及ヒ住居セ
シムルトキハ日本人自カラ條約ヲ破ルナリト又北
日耳曼ノ公使ハ日耳曼人ノ日本人ノ為メニ教
師若クハ他ノ事ニ用ヒラルヽ者内地ニ滞在ス
ルヲ得ハ同一ノ特權ヲ衆人ニ與ヘンヿヲ要シ
他國ノ公使ニ書ヲ贈テ其然ルヲ報知セリ無幾
ヽーリー、パークヽ君此事ニ付キ外國諸公使ト

ニ協心シテ事ヲ成スヿヲ首唱セリ其議論ハ
即チ左ノ如シ曰ク日本人ハ外國人ニ此特權ヲ
與フルヲ欲スト曰ク日本人ノ便利ノ為メニ一ノ
外國人ノ内地ニ行クヲ許ルシテ其同國人自己
ノ便利ノ為メニ内地ニ行クヲ許ルサヽルハ不
公平ナリト著公使ハ共ニ日本政府ニ對シテ議
論スヘキヿヲ約シデロング君モ之ニ同意セリ
ハ余輩ノ信スル所ナリ
然ルトキハ是ニ至ルマテハ新聞紙上ニ敵意ヲ表
シタル人ヲシテ疑ヲ起サシメタル一事件ニ付

キ公使ノ所行皆一樣ナリ
余輩ノ契謬ニ非ラサレハ著外國公使一同ノ意
見ヲ述ヘタル文書ハ之ヲ副島ニ交付シ一章一
句ノ彼我ヲ强嚇スルアルヲ見ス
ジョッデビンハム来テ直チニ其職ニ任シ自己
ノ意見ニ從テ事ノ可否ヲ判セリ是レ固ヨリ当
然ノ事ナリビンハム氏ハ其同僚ト意見以シ
異ナリ之ニ依テ以前ノ如ク著公使ノ處置十分
ニ一致セス然レトモ是レ著公使ノ間ニ敵意ア
ルニ曰テ起リタルニ非ス又其ノ公使ノ日本人

ヲ強嚇セシノ為ハニ止シタルニモ非ラス
近頃亜墨利加新聞ヨリ抜粋シテ「ジャパン、ヘラ
ルド」新聞ニ記載シタル書簡ニハ肖國ノ公使御
門ニ新年ノ祝辞ヲ奉ル時不敬ノ言ヲ用ヒタリノ
トテ之ヲ激論シ独リ亜墨利加公使ノミ之ニ同
意セサリシト云ヘリ是レ全ク無根ノ誣言ニシ
テジョッデビンハム氏モ此祝辞ニ同意ニ通例
ノ如ク謁見ノ両日前ニ之ヲ贈レリ是レ御門ヲ
シテ豫メ祝辞ヲ可否シ且ツ答辞ヲ作ラシメン
為メナリ若シ祝辞中不敬ノ言アラハ直チニ辭

駁スヘシ然レ氏事実此ノ如キ事無シ御門ニ謁
シテ祝辞ヲ呈セシ時ビンハム氏ノ在ラサリシ
ハ天氣厳寒ニシテビンハム氏ハ微シク病ニ冒
サレタルニ因レリ
余輩斯ノ往事ノ概畧ヲ述ヘタルハ人ヲシテ亜
墨利加新聞ニ記載スル所ノ猜忌ヨリ生シタル
言ノ無稽ナルヲ知ラシメン為メナリ但シ此地
ニハ幸イニシテ亜墨利加新聞ニ記載スル如キ
肖國ノ事無キヲ以テ余輩ノ辯ヲ費スハ此地ノ
人心ヲ欺メン為ニ非ラス只本國朋友ノ迷ヲ

解キ合ヒ同ジ新聞刊行人及ビ看者ヲシテ誤ラ
ザラシメン為メナリ
一國独リ利益ヲ占テ他國ノ害ノ為サンヲ恐ル
ヽ人ハ請フ各國日本トノ條約ニ特恩國ノ章ト
名ツクル一章アリテ其害ヲ防ケルヲ見ル可シ
此章ニハ最モ恩惠ヲ蒙ムル國人ニ許ルセル權
義ハ悉テ諸國ノ人ニ許ルスヘキヿヲ載ス故ニ
此章ヲ廃セサレハ一國ト如何程便利ナル條約
ヲ結フトモ他國ノ害トナルヿ無シ其故ハ此章ニ
依テ他國モ亦同一ノ便利ヲ得レハナリ故ニ一
國独リ利益ヲ占ントスルヒ得ンヤ然ルニ怨
言ヲ吐ク者ハ此事ヲ掩テ述ベース
日本人ノ受ケタリト唱フル强嚇(上ニ言ヘル如
ク唯人ノ空想ニシテ真実ノ事ニ非ス)ノ一條ヲ
讀ミタル者恐クハ十ニ八九ハ日本人ト外國人
トノ爭ノ何事タルヲ知ラサル可シ昨日刊行シ
タル此章ノ首ニ其概畧ヲ記シタル如ク日本人
ハ外國人ヲシテ其管轄ヲ受ケシメント欲シ外
國公使ハ亜墨利加公使ヽ外皆之ヲ肯ンセス又
外國人ノ(区)キ地ヲ指テ日本全國中ニ旅行セ

居スルノ権ヲ得シト欲スル日本人曰ク我欲ス
ル所ヲ許ルセ汝ノ需ニ応ジテ国ヲ開ク可シト」
深ク考ヘサレハ東方ノ事情ヲ知ラサル者ニハ
殊ニ其言フ所ノ明白ナルヲ覚ユ何ヲ以テ日本
人ノ需ヲ許ルサヽルヤ之ヲ以テ理無シトセハ
何ヲカ理有リトセンヤ之ヲ許ルサヽレハ日本
人ノ他國ニ旅行住居スル者日本ノ法律ノ下ニ
立ツヘキヲヲ要スルモ可ナリ
然レトモ此事ハ実地ニ於テ行ハル可カラス衆人
常ニ其心ニ存シテ忘ルヘカラサル事アリ夫レ

日本人ハ成文法律無ク此ノ如キ事此ノ如キ事
ハ我國ノ法律ニ依レハ罪犯ナリト唱フレトモ実
ニ真ノ法律ナルモノ無シ
方今日本人「コード、ナポレオン」ニ本テ法律書ヲ
作ラントスルハ実事ナリ然レトモ其成功ニ至ル
ハ猶幸ノ歳月ヲ費スヘク司法官其法律書ニ
依テ裁判ヲ為スニ熟スルハ更ニ数年ノ後ナル
可シ
假リニ全國ノ開テ外國人盡ク日本ノ管轄ヲ受
ケルト雖ドモ一カ所ヒツ其國ニ突入スルヤ独

リ商賈、工匠財主ハミナラス又輕躁ノ徒日本ノ
上國ニシテ牛乳蜂蜜ノ売買スルノミナラス金
銀ノ礦山多クシテ之ヲ開ケハ真ノ黄金鄉トナ
ルヘキヲ聞テ四方ヨリ集リ来ラン是等ノ徒漸
慢ナル日本人ノ中ニ入ラハ忽チ其生命ヲ失フ
可シ故ニ余輩ハ日本ノ當轄ニ仮シテ内地ニ住
スルノ自由ハ日本ニ於テ法律ヲ正シク施行シ
テ善人ヲ保護シ悪人ヲ罰スルノ日ヲ待ンヲ望
ム
畢竟外國人ノ希望スル所ハ此ノ如シ曰ク外國

ノ人民ハ法律ノ下ニ立タサルヘカラス然レ𪜈
無知貪欲ナル司法官ノ裁判若クハ野蠻ノ國ニ
ノミ行ハルヽ刑罰ヲ受ケ難ク其罪ヲ白狀セシ
メン為メ妄リニ鞭撻拷問セラルヘカラス
日本人ノ希望スル所道理ニ合ヒテ之ヲ許ルス
ヘキ時至ルヘシ然レ𪜈其時ハ今ヨリ猶遠シ
三月二十六日「ヘラルド」抄訳
日本ノ使節外國ニ於テ法律学牢獄ノ制度裁判
ノ方法ヲ見聞シテ國ニ帰リ日本ノ外國新聞屋
議論ヲ為シタル後猶頑固ニ帝國ノ都ニ於テ拷

問ヲ行テヲ見ルハ人ヲシテ大イニ失望セシム
今ヲ距ル纔カニ一周前東京ノ裁判所ニ於テ拷
問ヲ受ケタル者歩行スルヿ能ハスシテ駕籠ニ
乗テ送ラレタリ是レ外國人ノ多クハ誤テ古メ
日本ニノミ有リト思ヒタル殘酷ノ拷問ニ遭テ
肉破レ骨ハ殆ント碎ケタル故ナリ近頃横濱ノ
一新聞ニ岩倉ノ刺客ナリト疑ハレタル者ヲシ
テ其同惡ヲ白狀セシメン為メ歐羅巴ニ所謂拷
問ナルモノヲ用ヒタリト記シタル時開化ノ人
民ハ少シク之ニ驚キタレトモ現在日本裁判所ノ
形況ヲ熟知セル者ハ別ニ之ヲ怪マス今ニ於テ
モ東京裁判所ニテハ背破レ四肢殆ント痿痺ス
ルニ至ルマテ竹ヲ以テ鞭チ更ニ甚タシキハ堅
キ木板ニ葡ヲ鑿テ鋭キ齒ヲ作リ其上ニ罪人ヲ
座セシメ脚及ヒ膝ノ上ニ重キ石ヲ置キ齒ヲシ
テ肉ヲ喫ミ骨ヲ裂カシムルカ如キ古ノ拷問ヲ
用ヒ猶之ヲ維新文明ノ第七年ト唱フ日本政府
ハ外國人ヲシテ領地外ノ権ヲ棄テ日本ノ管轄
ニ服セシメント欲スルヿ疑無シ近頃カリホル
ニヤ州ニ於テサンフランシスコ人ニ説法シテ

日本官文ノ説ニ改宗セシメント盡力シタルヽ
日本ニ在ル者ノ知ル所ニヨリカハホルニヤ州人
フ改宗シテ條約中領地外ノ権ノ不正ナルトハ
本ノ法律及ヒ政府ノ保護ハ父母ノ赤子ヲ愛ス
ルカ如シトノ教ノ奉セシムルハ義事トシテ可
ナリ然レトモ外國人ニ仁恵ヲ施スノ外猶本國ニ
於テ行フヘキ他ノ職務多ク就中速カニ慈悲正
道ヲ行テ殘忍ヲ廃セサル可カラスカリホルニ
ヤ人ハ其誤謬ヲ改ムルヲ要スル必セリ若シ彼
等異端ノ徒ニシテ日本ノ説ヲ信セス或ハ之ヲ
嘲笑セハ宜シク新聞紙ノ手ヲ經若クハ他ノ方
法ヲ以テ宣教使ヲ遣リ之ヲ教化スヘシ日本政
府ハ実ニ文明國ノ風ニ從テ裁判ヲ為シ得ルヤ
ヲ知ラント欲スル異端ノ徒數百人日本ニ在リ
日本人先ツ之ヲ教化セスシテ遠ク合衆國ニ政
治上ノ宣教使ヲ遣リタルハ何故ナリヤ方今日
本ニ在ル數百名ノ外國人ハ日本裁判所ニ於テ
公平ニ裁判ヲ為スヲ見ントス若シ機會アノ
ハ彼等ハ善ク日本裁判所ニ行ヒ法律ヲ施行シ
又ヒ証人ノ証詞ヲ述フルノ方法如何ンヲ見ル

可シ先ツ日本ニ在ル外國人ヨリ教化スルハ良
方ニシテ且ツ費少ナシ日本政府カ否ラサレハ
其朋友或ハ奴隷タル者横濱ヲ措テサンフラン
シスコヲ宣教ノ地ト為シタルハ余輩ヲシテ大
イニ猜忌ノ念ヲ懐カシム然令ヒカリホルニヤ
ノ人民其誤ヲ慙悔シテ領地外ノ権ハ憎ムヘキ
異端ナルヲ認メ日本人在留外國人ヲ管轄スル
ノ権ハ常ニ各地ニ於テ衆人ノ信スル單一ノ正
教ナルヲ并ルスヒ今ニ於テ猶疑ヲ存シテ從ハ
サル外國公使外國政府ヲ諭スノ用ヲハ少シモ
為サヽル可シ日本政府裁判所ニ於テ全ク拷問
ヲ廃シ裁判所ヲ開テ衆人ノ聽聞ヲ許ルサハ在
留外國人及ヒ外國政府ヲシテ其教ヲ奉セシム
ルニ裨益アルヿカリホルニヤ若クハ他処ニ宣
教使文章家ヲ遣ルヨリモ大イナラン

三月二十八日「ガゼット」抄訳

電報　巴里一千八百七十四年二月二十日　内
國事務宰相ブログリー公國中ノ知郡ニ書ヲ送
テナポレオン第三世ノ太子丁年ニ達スル時之
ニ隨從シ礼ヲ行ハン為メ其郡ヲ去テチセラル

スト二至ル者ヲ防クヘキヿヲ命シタリ

ナポレオン第三世ノ太子ハ三月十八日丁年

ニ達ス